超時空要塞マクロス『ユグドラシルの光』

Carpediem.613

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
超時空要塞マクロス『ユグドラシルの光』

【Ｎコード】
Ｎ３５５６Ｗ

【作者名】
Ｃａｒｐｅｄｉｅｍ．６１３

【あらすじ】
第１１７次調査船団……そこに１人のエースパイロットがいた。
これはそのエースパイロット調査船団壊滅まで戦い抜いた物語である

転生

第１１７次移民調査船団。ここがオレの産まれ故郷になるらしい……。らしいというのは正しい。なぜならオレは周りの大人たちが言っているのを聞いているに過ぎないからだ。えっ！？なんで直接聞かないかって？それは喋れないからだ。

ハッキリと言おう！オレは転生してしまった……もう一度言うと転生してしまったのだ。オレは元々飲食店に勤務するコックさんだったのだが、今は０歳……つまり産まれたばっかりの姿でここにいる。

やっとのことで調理師の資格を取り、就職したら１ヶ月に休みが３回にしかない労働基準法ぶっちぎりのお店で働いていたはずだ。どうしてこうなったァ……。

確か３回目の休みを満喫するために映画館にいって、そのあと中華街にいって美味しいモン喰って……帰る途中で確かトラックと正面衝突して……あァ――オレは死んだのかァ？

という訳で転生したらしく今に至るという訳だ……理解できねぇ！そんな！なんでオレが転生なんてしてるんですかァ？ちきしょう……喋りたくても喋ることができねぇ！『あーあー』しかいえねぇし。

何度でもいいます。どうしてこうなったァ？

「ふふ、可愛いわね。昔の貴方を思い出すようよ」

「もう、からかわないで下さい。ドクターマオ」

「ごめんなさいね。クリスティナ」

「それで、名前をつけて頂けるのですか？ドクターマオ？」

「ええ、シンっていう名前も捨て難いけど、あなたの名前を捩ってクリストフにしようと思うんだけど？どうかしら……？」

「ありがとうございます。ドクターマオ。とっても素敵です！さぁ、あなたの名前はクリストフ・Ｓ・ランドールよ！よろしくね、私た

ちの可愛い息子」

クリストフ・S・ランドール。これがオレの新しい名前となった。

整理

えっと、ちょっと皆さん整理してみましょう。わたくし、クリストフ・S・ランドールはしがない料理を作るしか脳がない野郎だったわけで……あ、手が震えてるというかか体全体が震えてるんですけど……まあ仕方ないか今生まれてきたばかりだし……。なんなんだァ？

オレの本来の名前は……思い出せない。ただ、他の事なら覚えている。生まれ故郷は地球の日本で住んでるとこは葛飾区……家賃５万円の風呂・トイレ共同で歳は２９歳だ……彼女はなし！結婚もなし！収入はそこそこあって貯金に回していた。学業レベルは高校生程度、でも運動神経はよかったはずだァ……。

でだ……オレこと名前がわからないんでＡにしておく……でオレことＡは転生というかまた一から生まれてきたってことだな？納得は出来ないが理解はできる……クソ！なんで前世の記憶が残っているんですかァ？

いや、もう心の中で叫んでいても仕方がない！ちょっと頭を切り替えて周りから情報を得ることにしよう。

まず母親のクリスティナと呼ばれる女性。見た目非常に若く恐らく２０代後半の女性だ！敢えていうと非常にオレことＡの好みの女性だ。スラッとした体型だが出るとこは出ていて、引き締めるとこは引き締めて、何よりオレを見て笑ってる顔が美しい……惚れたと言っても良い。あ、マザコンではないからなァ？

外見はそんな感じだ。後白衣をきているから研究員かなんかだろう……ていうか生まれて気づいたら研究室で寝ているオレってどうよ？

あともう１人。初老の女性でドクターマオと呼ばれていた女性。恐らくオレの血縁ではないだろう。こちらも白衣を着ている。柔らかい物腰のおばあちゃんって感じかなァ？そんなイメージだ。

あー不幸なのか、幸運なのかわかんねぇー！でも寝て起きたら、元の世界かもしれないしな！とりあえず眠ってみよう！お休みなさい……。

入学

はじめまして。もしくはこんにちわ。炎の中華料理人改めて新幼稚園生のクリストフ・S・ランドールだ。オレは今母親の寵愛を受けて順調に成長している。もちろん寝て起きたら元の世界なんてことはなかったよ……おしめが取れてようやく一人歩きができるようになった。

父親は既に他界しているとクリスティナ……母上から聞いた話だ。父親は優秀な可変戦闘機（バルキリー）のパイロットだったそうだがこの惑星に来るときにバジュラと呼ばれる生物にバルキリーを粉々にされて脱出出来ずに死亡したらしい。

なんて話を子供にするのか？って皆さんは思いませんか？母上は聡明で明るい方なのですが父親の話になるとかなり怖くなります。息子が言ってるんだから間違いない。

さて話が逸れた。今日は幼稚園の入園式だ。ギャラクシー組の初顔合わせだ。

「くりす～あそぼ～？」

ちなみにクリスとはオレの愛称だ。クリストフを略してクリス。今舌足らずな声で話し掛けてきたのはマリア・サンクティス。オレの家の隣に住むいわゆる幼なじみというやつだ。

「遊ぶってなにして？それよりお前もかよ」

「うん！あたしはくりすといっしょでうれしいよ！」

「そうかい」

実はこのお嬢さんことマリアは幼稚園生とは思えないほど機械……特に可変戦闘機（バルキリー）に精通しているトンデモガールだ。家が可変戦闘機の整備士の家系でマリアの親に連れられ整備の現場にいったところマリアの指摘でファイター《戦闘機》形態からバトロイド《人型》形態の変形速度が2秒縮まったという。

ちなみにギャラクシー組はマリアを始めとする一芸に秀でた子

供を集めた特別クラスだ。そんなのが２０人程いる。科学者の息子、整備士の娘、天才物理学者、生物学者……などなど。
　さらに言うとオレはバルキリーパイロットと科学者の子供だ。
さあ皆さん何に秀でてるかわかりますよね？

　そうオレこそが中華料理界の伝説の神童、娘々飯店第１１７次移民船団店期待の星、銀河の炎使い、クリストフ・Ｓ・ランドールだ！
　子供ながらに三ツ星レストランのシェフたちの舌を唸らせてしまったがためにこのクラスに入れられてしまったのだ。オレはただ母上のために２歳ながらご飯を用意してただけなのに……。それを食べた母親が研究室で自慢し、さらに船団全体にオレの噂が広まってしまった。
　何度目か忘れたが何度でもオレは言うぞ。どうしてこうなったァ？
　というわけでオレの幼稚園生活が始まった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3556w/

超時空要塞マクロス『ユグドラシルの光』

2011年10月9日15時26分発行